

# 授業科目 小児発声発語障害学 II

【担当教員名】 渡辺 時生		対象学年	2	対象学科	言語
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎				
【概要・一般目標：G10】 吃音の基礎知識を身につける。 吃音の評価、診断、治療を理解する。 吃音者の困難や心理を理解し、適切な援助を考える。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1. 吃音の定義、発生、症状など基礎知識について説明できる。 2. 吃音症状の進展、可変性、重症度について説明できる。 3. 吃音検査法（改訂版）を説明できる。 4. 吃音治療の概要について説明し、適切な治療法を選択できる。 5. 間接的言語訓練について、適応・方法を説明できる。 6. 直接的言語訓練について、適応・方法を説明できる。 7. 吃音事例を通じ、実際の治療、援助において必要な事柄を説明できる。					
回数	授業計画・学習の主題		SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員	
1	吃音の基礎知識		1	講義、演習	
2	吃音の症状分類、鑑別、進展段階、重症度など		2	講義	
3	吃音の評価・診断・治療の概要		3	講義	
4	幼児吃音		4・5	講義	
5	幼児吃音		4・5	講義	
6	学童吃音		4～6	講義	
7	成人吃音		4・6	講義	
8	まとめ				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		改訂 言語聴覚療法シリーズ13 吃音	都築澄夫編著	建帛社	2008・2,625円
参考書		エビデンスに基づいた吃音支援入門 コミュニケーション障害の臨床(2)	菊池良和著 日本聴能言語士協会	学苑社 協同医書出版	2012・1,900円+税 2001・3,150円
その他の資料					
【評価方法】 期末試験 100%		【履修上の留意点】			